

# ひがし

通算第91号

2023.10.15 No.5

## 九月二十日 第47回 人権を考える講演の夕べ

### 演題「私は部落から逃げてきた」

西田昌也さん  
(西日本新聞社会部)

西田さんは、昨年、西日本新聞に連載「記者28歳 私は部落から逃げてきた」を担当され、被差別部落に生まれたことを明かしたうえで、現在も残る部落問題を伝えました。

○人権問題は、堅苦しいと感じるが本当に身近なこと。

○いろんな属性(高齢者、障がい者、LGBTQなど)はある。共通することは生きづらさだ。生きづらさを感じている人は周りにたくさんいる。

○郷土愛は誰でも持つ感情なのに、部落差別はそれを奪ってしまう。

○長崎で被爆された方がなぜつらい思い出したくない被爆体験を語るのか? それは、生きづらさを語ることで社会問題を多くの人に伝えるため。

○今の部落問題はロシアアンルーレットのようなものだ。もしかすると一生出合わないかもしれないが、弾が出たとき(部落差別を受けたとき)取り返しのつかないダメージを負うのだ。

○当事者(差別を受けた人)が、立ち上がって社会運動が始まった後は、差別を受けない大多数側が「何ができるのか」を考えないといけない。

○当事者が逃げることは間違いない。生きづらさを感じている人に大多数側が強くなれと言うのは厳しいと思う。

私が印象に残った言葉をいくつか紹介しました。たくさんの方のことを考えさせられる講演でした。

西田さんの連載が読みたい方は、東飯田公民館に新聞のスクラップがあります。声を掛けてください。

## 『破戒』DVD上映会

島崎藤村の不朽の名作「破戒」のDVD上映会があります。

『破戒』の主人公は、被差別部落に生まれた青年教師・瀬川丑松。丑松は父から「素性を隠して生きろ」という戒めを受けて育ちました。

「なぜ自分の故郷を語れないのか。なぜ好きな人に気持ちを伝えることができないのか。」自らの目に苦悩し、丑松は、最後にある決断をします。

○十月十八日(水)午後七時～九時半

飯田ふれあい交流センター

○十月二十日(金)午後七時～九時半

書曲三集会所

○十二月七日(木)午後六時十五分～

いのち・愛・人権フェスティバルで上映

### 第二十回隣保館ふれあい広場

十月二十八日(土)十一時

たくさんの方の参加をお待ちしています。